

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良く なっている	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・公募や今年度事業での相談、引き合いが多くなってきた。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・4月以降受注が前月プラスで推移している。
(九州)	やや良く なっている	百貨店（総務担当）	来客数の動き	・熊本地震の影響での買い控え感が強く残り、アパレルを中心に動きが鈍い状況が続いている。7月には参議院選挙も控え、景気回復のきっかけがなく、回復基調になれない。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・熊本地震復興の特需的景気による追い風がある。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・熊本地震の影響も落ち着き、慢性的に不振が続いている衣料品も底打ちしたのか、今月は前年並みの売上となっている。生活雑貨も気候変化に伴い上昇してきている。また、宝飾等の高額は順調であるが、ラグジュアリーブランドは不振である。ギフト商戦がスタートしたが、出足が鈍い状況である。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・熊本地震の影響で色々な物の買い直しや、ボーナスが出た公務員等の消費が進んでいる。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・熊本地震の影響により競合店が営業できない状況で前年比130%で推移している。競合店の閉店等により営業している店が良い。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・生鮮食品を含め食料品は来客数、売上共に好調に推移している。雑貨、衣料品の売上も順調に推移している。
		コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・熊本地震の影響で近くの大規模店舗が閉店している間、客数は伸びている。それに伴い、客単価も前年比で少し伸びている。全体的に売上が若干伸びている。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・猛暑の予報が好影響を与えているのか、前年より夏物商材の動きが早い。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・食料品、生活雑貨という生活のなかでなくてはならない品目の売上が上がってきた。来館客数自体、向上している。昨年はプレミアム付商品券の販売があったにもかかわらず、セール初週も前年実績を上まわる推移だった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・5日間に渡る世界的社会奉仕団体の国際大会等、大きな催し物もあり確実に国内外からの観光客が増加している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は参議院選挙が始まったこと、雨が多いことから、傘代わりに車を使う客が多い。3か月前から熊本地震の影響の客の予約状況（稼働率）が高く、昼間の売上が大変良い。ただ夜の繁華街が暇である。
		変わらない		商店街（代表者）
商店街（代表者）	お客様の様子			・客が来店しても商品を購入するという判断をなかなかしない。価格に対してもシビアで1枚買うにも安いものでないと購入しない。
商店街（代表者）	お客様の様子			・6月は梅雨時期で商売にならない。商店街では高齢者が多く午前中は来客が少しあるが午後からは全く無い。かなり売上も減少して利益が上がっていない。
一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子			・高齢の方が多いため、梅雨に入ってから来客数が減っている。県内物の野菜が中心なので売価も上がり客も買いつらく、食欲がわく時期でも無いため、厳しい状態が続いている。
一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子			・動きが悪すぎる。魚が少ないこともあるが、売上が悪い上に魚価が高く、なかなか利益を確保できない。
百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子			・熊本地震の影響は軽微な程度にまで回復したが、旅行や出張が減っているのか九州土産の売行きがまだ鈍い。一方で地元の客が中心の生鮮食品・惣菜は健闘しており、ここ数か月変動が大きかったが落ち着いた。
スーパー（店長）	販売量の動き			・今年は梅雨の雨が非常に多く来客数も少なく、販売量にも影響が出ている。特に生鮮食料品が売れておらず、身近な固定客が来ていない。
スーパー（総務担当）	それ以外			・売上は大幅に上回っているが伸び率は2～3か月前とさほど変わらない。
コンビニ（経営者）	来客数の動き			・前年比で客数の減少が続いている。

	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・天候不順、熊本地震の影響からか、ほとんど来客はない。たまにあっても買う意欲がない。
	衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・熊本地震の影響も段々と薄れて来た。それでも業界によってはしばらくかかる。
	衣料品専門店 (チーフ)	単価の動き	・6月当初の売上水準は前年並みであったが、6月後半にかけてセールスの動きが入り、一時減少傾向にあった来客数がセール開始とともに盛り上がってきた。
	衣料品専門店 (取締役)	お客様の様子	・6月は客足が雨に左右される。また、セール待ちということもあり思ったように数字が上がらない。一部セールの影響で物の動きが良くなり前年を超えているが、特に景気が良くなっているということではない。
	家電量販店(広 報・IR担当)	販売量の動き	・エアコンを中心に季節商材の動きが良い。他の主力商品も前年並みで推移している。
	乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・新車の販売台数が低調である。最近の3か月はいずれも目標に大きく未達となった。来店客数も少なく、厳しい状況が続いている。
	住関連専門店 (経営者)	お客様の様子	・毎月のキャンペーンは順調だが店の売上が前年同月比で落ち込んでいる。客の商品選びが慎重でなかなか一度では決まらない。
	その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	お客様の様子	・熊本地震以降、客の来店回数が減ると予想していたが以前と変わらず来店している。売上は横ばいである。
	その他専門店 [ガソリンスタ ンド](統括)	お客様の様子	・燃料油の小売価格はやや高くなる傾向にある。6月は雨が多く、燃料油の販売量はやや昨年を下回っていた。客のボーナスに関して様子を伺うと、6~7月のボーナスが昨年よりやや増加しているという。
	その他小売 [ショッピング センター](広 報担当)	販売量の動き	・気温は高めに推移しており、猛暑の予報で期待できる。熊本地震の影響も徐々に改善されつつあり7月以降九州観光の補助もあり国内外の観光客増も期待感の一つである。好材料が多い一方で、豪雨等の天候異常がどう左右するのか、農作物の不作も気になる。
	高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・予約数、来客数が増えていない。
	居酒屋(経営 者)	来客数の動き	・熊本地震の影響が残っており、観光客が戻っていない。
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・熊本地震が宿泊予約にまだまだ影響している。
	観光型ホテル (専務)	お客様の様子	・熊本地震の風評被害の影響が長引いている。7月から九州観光支援旅行券がスタートするので、客足が伸びるものと期待しているがあまり当てにはできない。
	都市型ホテル (販売担当)	来客数の動き	・4~5月は大分、熊本地震の影響があり宿泊関係でかなり厳しい状態が続いているが、宴会等はあまり変わらない。これからもあまり変わらない。
	都市型ホテル (副支配人)	販売量の動き	・1年のうち一番弱い6月ではあるが、単価はしっかりある。全体的な売上も前年より良い。
	通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・時期的なものもあるが、消費活動をしている様子が見えない。
	通信会社(営 業)	販売量の動き	・販売量、在庫の数が前年比で減少している。マーケットの縮小を考えると極端に良くも悪くもない。
	競馬場(職員)	販売量の動き	・熊本地震の影響を感じることなく、依然として好調に推移している。
	美容室(経営 者)	販売量の動き	・春の景気が落ち着いてくる時季だが変化は無い。参議院選挙の動向もあるが、少しずつ利益が上がっていくような対策を打って欲しい。
	美容室(店長)	来客数の動き	・雨が続き客も外出を控えている。景気に関係はないが、雨の日は高齢者の客足が鈍る。
	その他サービスの 動向を把握で きる者[介護 サービス](管 理担当)	単価の動き	・4月の介護報酬マイナス改定影響により、同業他社の中には減益決算となる法人もあり、当社においても主事業の単価が前年比で大幅なマイナスとなっている。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・戸建てとマンションの分譲は、仕込みの時期でいまだ売り出しにかかっていないので客の状況は分からない。他社の状況を見ると良い所は順調に売れている。リフォームの仲介が前月と変わらず受注契約が進んでいる。
やや悪く なっている	商店街(代表 者)	来客数の動き	・景気が悪い時は尚更天候に左右されやすいのが目立ってきている。今月は特に来客数が減少している。
	一般小売店[生 花](経営者)	来客数の動き	・熊本地震後の割に客が入るようになったが、人通りが少ないので、落ち込み具合を感じている。

一般小売店 〔茶〕（販売・ 事務）	販売量の動き	・数年の売上は少しずつ下降している。新茶の入荷は例年通りだが仕入値は毎年上がっている。売値を変えていないため利幅は減少している。
百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・買上単価は維持しているが、熊本地震の交通と観光への影響に加え前年を上回る豪雨による客の来店への影響が大きく平日・土日ともに来店客数が減少し、また、前年のプレミアム付商品券の反動で、貴金属・美術工芸等高額商品の売上が減少した。お客様催事の店外特招会は雨の悪影響を克服した。また、固定客を持つ紳士雑貨・特選バッグや婦人雑貨は堅調に推移しているものの、婦人衣料は伸び悩んでいる。
百貨店（業務担 当）	お客様の様子	・夏物需要も高まりを見せる時期だが、熊本地震後の状況は、必需品の買物が多く、ファッション商品の動きは悪い。これからお中元商戦が本格化するなか、熊本地震後の返礼需要の問い合わせは多いが、自分の買物には慎重である。
百貨店（売場担 当）	競争相手の様子	・全体として良くない。原因として悪天候が挙げられる。流れが変わってきているのは衣料品関係で、このところ改善してきている。催事と外商の動きが悪い。
百貨店（営業統 括）	お客様の様子	・4月の熊本地震、5月の豪雨と厳しい天候と、景気動向の不安定要素が多く、単価ダウン含め、客の買い控えが目立つ。
百貨店（マネー ジャー）	来客数の動き	・株価の低下や、景気減速の影響と思われるが、来客数が前年に追い付かない状況が続いている。インバウンドの客も、中国の関税引上げに加え、円高基調が継続していることもあり、苦戦が続いている。
スーパー（店 長）	来客数の動き	・衣料、暮らしの品の不振に加え、今月は食品の客数が減ってきた。
スーパー（経理 担当）	販売量の動き	・豪雨と寒暖差の激しい日が多く、夏型商品の飲料、アイスクリーム等の動きは良いが、パン、菓子などが悪い。また、青果、精肉の単価変動による売上減が大きい。
コンビニ（エリ ア担当）	単価の動き	・来客数と売上点数は前年を上回っているが、客単価がわずかに前年を割っている。売上も思うようにいっておらず、厳しい状況である。
衣料品専門店 （店員）	単価の動き	・熊本地震直後よりも入出は戻ってきているが、客単価が上がらないので売上は前年を割っている。単価にシビアになっており、手軽な単品衣料しか買わなくなっている。
衣料品専門店 （総務担当）	来客数の動き	・商店街全体の集客力の低下を含め、来店客数が前年比で非常に減っている。
ドラッグストア （部長）	販売量の動き	・熊本地震による影響や最近の円高による影響もあってか、インバウンドの客の購入単価が下がってきている。また、閉鎖中の店舗の売上減少もある。
その他小売の動 向を把握できる 者〔土産卸売〕 （従業員）	販売量の動き	・売上が前年比80%～90%と熊本地震の影響で大きく落ち込んでいる。
高級レストラン （経営者）	来客数の動き	・7月10日に参議院選挙があり、その動きが会社関係にも影響があるようで来客数が少ない。
一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・前年と比較して、格段に客数が減っている。予約が入ってくる気配もなく、特に会社単位でのグループ利用がほとんど無い。
都市型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・熊本地震の影響もあるが、外国人観光客の数が減っており稼働率にも勢いが無い。
旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・熊本地震の影響で、自粛ムードが広がっていたが、政府が補正予算で180億円を観光事業に充当することが決まった後、この支援策を待ち、買い控えが見られる。
旅行代理店（企 画）	お客様の様子	・熊本地震の影響もあるが、前年比で少し減少傾向にある。
タクシー運転手	来客数の動き	・英国のEU離脱問題による心理的影響が大きい。
タクシー運転手	お客様の様子	・ホテルの宿泊が熊本地震の影響で少なかったため、タクシーの利用も少なかった。
観光名所	来客数の動き	・3か月前と比較して、熊本地震や梅雨の影響があり、客足が日本人、外国人ともに減少した。どのようにして集客数を伸ばすかが課題である。

		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・熊本地震の影響がまだ残っており、日本人観光客が前年比で半分以下である。インバウンドが前年より増えているのが明るい材料だが、客数が前年比マイナス10%と前年割れしており、パート従業員、契約社員の出勤日数を調整している状態である。
		競輪場（職員）	競争相手の様子	・各場のグレードレースの売上が横ばい、又は減少傾向にある。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	来客数の動き	・熊本地震の影響により来客数はやや落ち込んでいる。
		設計事務所（代表）	お客様の様子	・株安、円高で様子を見ている。
	悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・熊本地震後の消費マインドの低下により売上が大変厳しい状況である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・製造物は動きが見られるものの、来店数が大幅に減少している。売上も前年比で13%減である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・大型店を含む競合店の早々の夏物バーゲンにより商店街への来客数が減っている。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・4～5月の熊本地震以降については非常に消費が低迷していたが、6月は天候要因を外せばやや回復の兆しが見られた。今後英国のEU離脱問題が大きく消費を押し下げる要因になる。3か月先は非常に読みづらいが、非常に厳しい状況に戻る。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	来客数の動き	・熊本地震以降、外国人の来場が大幅に減っている。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・県外、海外からの客が、熊本地震の影響で交通が大幅に遮断されて、当県における人の流れが悪くなっており、売上が落ち込んでいる。
		観光ホテル（総務）	販売量の動き	・熊本地震の影響がある。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・熊本地震以降、とても悪い。大雨も降ってきて当県は悲惨な状況である。どうにかして欲しい。
企業動向関連 (九州)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・取引先が熊本地震で被害を受けたが、それをきっかけに不採算部門を整理し、得意分野への資源投入を決断した。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・熊本地震の影響により社外での代替生産も多く、通常以上に物流費等が発生している。ただし、生産数量はばん回生産分が上乘せされているため、当初計画に対して単月で増産傾向である。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・第1四半期の最終月になりやっと官公庁からの発注があった。受注業者に偏りはあるが発注されたことはとても良い。第2四半期までに官公庁全体80%が目標のようである楽しみにしている。
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・梅雨により消費が伸びていない。スーパー、居酒屋等で計画を若干下回る見通しである。冷凍食品加工メーカーも勢いが無い。熊本地震の影響がまだ残っている。
		農林水産業（営業）	受注量や販売量の動き	・市況的に変化はなく流れている状況である。
		繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は多くなってきてはいるが、国内外での生産力の低下が原因である。今は社会的な不安要素もあるため、消費者や生産者ともに慎重になっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社の様な機械設備事業は年度初めは例年仕事量が乏しい。今年も例外なく仕事量は少なく、客からの受注は乏しい。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・だいたいこの時期は荷動きが悪いが、今年も今の所あまり良い状況ではない。貨物が入らないので、荷を置かせて欲しいといった問い合わせもないことから、他の倉庫も空きスペースがある状態である。

	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・英国のEU離脱問題による円高・株安動向や、集中豪雨による土砂崩れ等の影響により、直接的な被害はないものの、人心に与える景気停滞感が存在する。物流の観点から見て、円高は荷主の商品回転率・物量に影響し、長引く雨は、荷卸し・積み込みの効率を著しく下げるのでインパクトとしては若干ながらも、忌避すべき状況である。
	通信業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・年度の初期ということもありIT関連の受注に向けた活発な動きと成果が見られない。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・消費者のマインドは慎重で、百貨店・スーパーなどの売上は伸び悩んでいる。また、熊本地震の影響で観光客が減少している。一方、雇用環境は着実に改善しており、住宅投資にも持ち直しの兆しがみられる。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・熊本地震以後の復興需要により建設関連の動きは活発となったが、英国のEU離脱問題による株安、円高の影響が経営者の心理に影響を与えている。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・熊本地震の被災地以外では、影響は薄らいできた。当県の主要駅周辺の開発により消費の刺激効果がある一方で、消費心理を冷やすイベントもでてきている。
	新聞社（広告）（担当者）	受注価格や販売価格の動き	・前年比97%と通常と比べると健闘している数字だが、申込の月ずれや参議院選挙関連の広告出稿によるもので、主力の通販や旅行広告は90%を割り込んでいる状況である。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・こちらからの働きかけも少ないが、受注に関する動きがほとんど見られない。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・積極的に人材採用を増やす取引先もいれば、受注状況の伸びが見られない、景気が良いという実感が無いと発言する取引先もいる。
	その他サービス業〔物販リース〕（支社長）	取引先の様子	・好景気な話は聞かないが、各取引先とも順調な様子。老朽化した設備の更新需要に対し、補助金を活用したファイナンススキームは受けが良い。新規事業の立ち上げをしたい会社が多く、自社の強みを生かして、他社とアライアンスを組む話が多い。
やや悪くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・熊本地震の景気への影響も東日本大震災、阪神淡路大震災の経験からか、早い支援策が打ち出され少しの安心感が持たれた。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・冷凍食品の原料となる農産物が不作で、質・量共に良くない状況で加工に悪い影響が出ている。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・5月までは陶器市等があり受注も順調に推移していたが、6月に入ると円高傾向になり受注量が減ってきている。
	金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・取引先のこの四半期受注量が減少している。例年下期偏重の売上の為、この時期の受注が下期の売上に直結する。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・さっぱり動きが止まった状態である。一番の要因は中国経済の悪化、英国のEU離脱問題、円高の問題、日本における参議院選挙の問題がある。各ユーザーはじっくり様子を眺めている。
	その他製造業（産業廃物処理業）	受注量や販売量の動き	・まだ熊本地震の影響も残っており、生産量が増えていない。また、円高・原油価格の下げ等により相場も低迷している。
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・熊本地震の影響を受け、地元の企業の復興遅れもあり物量が低下している。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・個人の動きではボーナスの提示金額が思わしくなかった。企業活動では受注や工事等が思うように出ていない。
	金融業（営業）	取引先の様子	・中国の景気後退を主体とする世界的な需要減がこれまで見られてきたが、円高の進行により国内景気は先が見えない停滞に入っている。
	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・客単価が前年比10%ダウンした。買い控えが見られる。
その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・熊本地震があり、熊本県の市町村からは、住宅支援等が優先され、当初予算化されていた調査や設計等の業務についてコンサルタントへの発注が保留状態になっている場合がある。当県内の市町村では、6月の補正予算について、総合戦略に関する事業を多く盛り込んでいるところもあるが、全体的には予算が絞られている。	

	悪く なっている	経営コンサル タント（代表取締 役）	取引先の様子	・熊本地震の影響が大きく通常とは全く違う状況である。6月に入って好転すると思っていたが非常に厳しい。梅雨入りし天気が悪いことと、水害も増えており人出が少なく動かなくなっている。車だけは非常に渋滞して人の動きが遮断されており、6月は非常に悪い状態である。
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
(九州)	やや良く なっている	職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比+18.6%、8か月連続2けたの増加となった。昨年度後半以降、1事業所当たりの求人数も増加している。
	変わらない	人材派遣会社 （社員）	周辺企業の様子	・業種によっては売上が前年を上回っている企業もあるが、それはごく少数企業である。求人者の問い合わせも特に変わってはいない。
		人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・本来であれば求人数が伸びてくる時期だが求人市場の動きも派遣登録者の動きも鈍い。稼働出来そうな登録者もあまり動きがなく案件があっても苦戦が続いている。
	変わらない	人材派遣会社 （社員）	雇用形態の様子	・派遣社員のまま雇用するよりも社員登用し給与を低く提示する企業が増えてきている。本来、派遣は雇用維持費削減のための対応策であるが、正社員のコストを抑えており、安定志向の求職者心理を逆にとる企業が増えている。
		職業安定所（所 長）	求人数の動き	・当県の平成28年4月の有効求人倍率は1.18倍と前月を0.05ポイント上回った。有効求人倍率は13か月連続で1倍台を維持している。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・熊本地震の影響から製造業等の一部業種について減少はあるものの、建設業、貨物輸送業、医療福祉業等の増加により、前年同期比で4割増である。
		職業安定所（職 業紹介）	求人数の動き	・新規求人数では前年比マイナスの月も見られるが、有効求人数は増加傾向が続いており有効求人倍率も高い水準で推移している。
		学校〔大学〕 （就職支援業 務）	求人数の動き	・求人数は、前年度と同推移である。
学校〔専門学 校〕（就職担 当）		雇用形態の様子	・事業サービス分野や運輸分野において、契約社員から正社員へ雇用形態を変更する企業が目立つ。	
やや悪く なっている	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・派遣求人状況が前年比で減少傾向である。参議院選挙による報道機関からのスポットの依頼、大雨被害による2～3か月ほどの短期的な損害保険会社からの依頼は増えている。	
	人材派遣会社 （社員）	求職者数の動き	・数か月前までは派遣求職者の流動性が高まっていたが、直近では派遣契約の継続希望者が増加している。より処遇の良い仕事へ移る派遣社員が多かったが、処遇の高い条件の仕事数が減少した為か、継続を希望する派遣社員が増加している。	
	求人情報誌製作 会社（編集者）	周辺企業の様子	・当社取扱の求人件数は今期に入り、前年を下回って推移している。取引先は地元企業が中心なので、求人意欲が低下していると考えられる。	
	新聞社〔求人広 告〕（担当者）	それ以外	・会員制の講演会をしているが、会員の退会が増えてきた。アベノミクス以降しばらく入会はあっても退会は少なめだった。消費税増税の2年目の4月からの傾向のようである。	
	新聞社〔求人広 告〕（担当者）	それ以外	・英国のEU離脱問題による株安、円高の影響がある。	
悪く なっている	新聞社〔求人広 告〕（担当者）	それ以外	・熊本地震後の動きについて、企業も徐々に回復してきてはいるものの、本格稼働までは行きついていないところも多い。大型ショッピングセンター等もまだ営業再開できておらず、消費行動も鈍い。	
	民間職業紹介機 関（支店長）	求人数の動き	・第1四半期比較で、前年同期横ばいである。実質的にはマイナスである。	